

もくじ

- 会長挨拶「会長就任にあたって」

EWE 会長 横井 亮介

- 2018年度 総会報告

- EWEホームカミングデー開催のお知らせ

- 新任教員挨拶

電気・情報生命工学科/電気・情報生命専攻 教授 近藤 圭一郎

情報理工学科/情報理工・情報通信専攻 教授 寺内 多智弘

理工学術院 国際理工学センター 准教授 劉 江

- キャンパスライフ

情報通信学科 小林研究室 博士2年 斎藤 奨

- 地方本部だより

九州地方本部

東海地方本部

- クラス会だより

電気通信学科 1947年(昭22)卒クラス

会長挨拶

「会長就任にあたって」

早稲田電気工学会
会長 横井 亮介



このたび 2018 年の通常総会におきまして電気工学会 EWE 会長を仰せつかりました横井亮介です。

私は 1960 年に電気通信学科に入りました。その秋に、早慶六連戦があり神宮球場に連日応援に駆けつけました。ご承知の如く、安藤投手の不屈の連投もあり劇的な優勝を目の前にして、私は満杯の球場で校歌はもちろん「早稲田の栄光」を歌い、酔いしれました。入学以来、伝統の重みと力強さを素直にひしひしと感じた瞬間でありました。

EWE は今年で 106 年を迎えます。学部学科の名称はこの歴史の中で時代に応じた変遷を遂げてまいりましたが、これまで先人、先輩方々のご尽力により EWE は一貫して大きな足跡を残してきました。遡って EWE 会報を見ればひしひしと伝わってきます。これも早稲田伝統の重みと力強さです。

もちろん、EWE の現場実務を日々支えている事務局の方々の長年のご努力にも心底敬意を表するものです。

私は微力ではありますが、これからの次世代を担う EWE 由来の学生の研究活動を応援し、少しでも実のあるお手伝いができたらと思う次第です。

これは歴代の理事役員が取り組んできたテーマでもありますが、先代からの意思も帯同して取り組んでいきたいと考えております。その為一層の会員相互の熱き想いを結集致したく、皆様のご協力をよろしくお願い申し上げる次第です。

2018年度 総会報告

《定時評議委員会・通常総会》

日時：2018年5月11日(金) 18:00～19:00

場所：55号館 1階 大会議室

出席者 53名(内評議員20名)、評議員委任状提出者68名
定数に達し、評議員会ならびに総会は、成立となった。

【議 事】

1. 会長挨拶 掘越 佳治 会長
2. 定時評議員会の議題
 - (1) 評議員の委嘱 渡邊 孝信 副会長 (庶務)
 - (2) 2017年度事業経過報告 如澤 裕尚 副会長 (事業)
 - (3) 2017年度収支決算報告 中里 秀則 副会長 (会計)
 - (4) 2017年度会計監査報告 岡野 俊行 監 事
 - (5) 2018年度事業計画案 如澤 裕尚 副会長 (事業)
 - (6) 2018年度収支予算 中里 秀則 副会長 (会計)
 - (7) 役員等の選任について 渡邊 孝信 副会長 (庶務)
3. 通常総会の議題
 - (1) 評議員会の審議事項の承認 渡邊 孝信 副会長 (庶務)
 - (2) EWE 学生部会報告 幸加木裕也 学生委員長
 - (3) EWE 活性化委員会報告 尾崎 肇 活性化委員長
 - (4) EWE 三月会活動報告 高垣 孝 三月会幹事
 - (5) 新会長挨拶 横井 亮介 新会長
 - (6) 新会長代理挨拶 松山 泰男 新会長代理

総会終了後、懇親会が竹内記念ラウンジで開催された。

最年長の依田氏(1952 電)の乾杯で開会し、小島 庶務担当副会長の一本締めで閉会した。



乾杯は、1952 電気卒
依田文吉氏



2018 年度 EWE ホームカミングデーのご案内

拝啓

時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

また、日頃からEWEの活動にご理解・ご協力を賜り、御礼申し上げます。

さて、EWEでは、卒業生の皆様の交流を一層深める企画として、昨年度に続き下記の通りEWEホームカミングデーを開催いたします。昨年度は卒業後10年までの年次の卒業生を対象にいたしました。が、本年度より垣根なく、全ての卒業生と在学生にも参加していただけます。

とくに在学生の数人には、ポスターによる研究紹介をお願いしています。

研究室の現在の活動を通じ、親睦・議論の輪を広げて頂ければと思います。

明るい時間帯にキャンパスにお集まりいただき、年次、研究室の枠を超えて旧交を温めていただけるよう、簡単なお飲み物と軽食を準備いたします。

またこのEWEホームカミングデーの集いを気軽な一次会と位置付けていただき、その後先生方を囲んでの同窓会を各研究室単位で企画いただくなど、共に青春を謳歌した同窓の友との再会の契機としていただければと考えております。

また幅広い卒業年次の会員の集いを通じ、このホームカミングデーが新たなネットワーク作りのきっかけになってくれれば嬉しい限りです。

是非、皆様お誘い合わせの上、ご来会くださいますようお願い申し上げます。

敬具

平成30年8月吉日

EWE 会長 横井亮介

記

1. 日 時 2018年10月13日(土) 15:00~17:00 (受付開始: 14:30)
2. 会 場 早稲田大学 西早稲田キャンパス 63号館1階ロームスクエア
3. 会 費 2,000円 但し、学生無料

※簡単なお飲み物と軽食を準備いたします

4. 事前登録 準備の都合上、10月8日(月)迄に、
①お名前 ②卒年/学科・専攻 ③研究室 ④メールアドレス を
明記の上、EWE事務局 jimukyoku@ewe.or.jp 宛お申込みください。

*当日受付も承ります。

5. 対象者: 全EWE会員の皆様

【お問合せ】 EWE 早稲田電気工学会 事務局 電話: 03-3232-9768

メールアドレス jimukyoku@ewe.or.jp



EWE ホームカミングデー
2017 年度風景



新任教員挨拶

電気・情報生命工学科/電気・情報生命専攻教授
近藤 圭一郎



2018年4月に先進理工学部電気・情報生命工学科に着任しました近藤圭一郎です。鉄道総合技術研究所（JR 総研）に勤務の後、千葉大学での約11年の教員生活を経てこの春から早稲田で本格的にお世話になることになりました。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

自身の専門はパワーエレクトロニクス、モータドライブです。パワーエレクトロニクスとはパワー半導体スイッチングデバイスを数100～数MHzでON・OFFし、このONとOFFの時間の比を変えることで、電圧、電流、周波数などの電気の属性を変化させ、電力を制御する技術です。モータドライブはこの技術を用いて高効率、高速にモータのトルクを制御する技術です。

私がこの道に進んだきっかけは、小学生の頃、当時の国鉄で、直流チョップ回路で主電動機（鉄道車両駆動用電動機をこう呼びます）を制御する通勤電車が実用化され、これに興味を持ったことでした。このとき使われていたデバイスであるサイリスタはONはできるが、OFFはできない素子でした。これをどうやってOFFするのか、そのための回路や制御はどのようになっているのか、これらを知りたいというのが自身のパワーエレクトロニクス技術への興味の原点です。

それから40年の時を経て、今ではOFFの機能を有するのみならず、数10kHzの高周波でスイッチングが可能で、損失が少なく、高耐圧の素子が普及しました。その結果、パワーエレクトロニクス技術は、家電製品、自動車など我々の便利な暮らしを支え、太陽光や風力発電など、地球規模のエネルギー問題解決の解決にも不可欠な技術になりました。

技術の究極の姿は、その技術を使う人にその技術を意識させないことだとすると、パワーエレクトロニクス技術は徐々にその領域に入りつつあります。このような時代にあって、当研究室は、この技術の存立の道理を明らかとすることで、この技術がさらに普及し、エネルギー面で持続可能な社会の構築に貢献したいと考えております。

皆様のご指導ご鞭撻をお願いいたします。

略歴：1991年早稲田大学理工学部電気工学科卒業、同年鉄道総合技術研究所入所、2007年千葉大学工学部助教授、その後、同大学工学研究科准教授、教授を経て、2018年早稲田大学理工学術院教授に着任。2001年博士(工学)(早稲田大学)、技術士(総合技術監理部門、機械部門)IEEE Member、電気学会上級会員、自動車技術会 技術担当理事、日本鉄道車両機械技術協会顧問など。

新任教員挨拶

情報理工学科/情報理工・情報通信専攻 教授
寺内 多智弘



2017年9月に基幹理工学部・情報理工学科に着任いたしました。どうぞよろしくお願いたします。私は、栃木県で生まれ14才まで日本で生活し、14才から28才までを米国で過ごしました。米国では、コロンビア大学で学士号を取得し、カリフォルニア大学バークレー校で修士号と博士号を取得しております。学位はすべてコンピュータサイエンスを専攻しました。博士取得後は日本に戻り、2007年1月から2011年3月まで東北大学で助教として勤めました。その後は、2011年4月から2014年3月まで名古屋大学で准教授として、またその後、2014年4月から2017年8月まで北陸先端科学技術大学院大学で教授として勤めました。これまで、国内外のさまざまな大学に在籍してまいりましたが、この度、早稲田大学に着任できたことを大変うれしく思います。着任してまもなく一年になりますが、卒業生でもなく早稲田に縁もゆかりもなかった私を暖かく迎え入れてくれた教職員の方々に改めて感謝を申し上げます。

私の主な研究分野は「プログラミング言語」です。特に、コンピュータプログラムの正しさを機械的に検証する「プログラム検証」や、正しいプログラムを機械的に生成する「プログラム合成」に興味を持ち研究を行っています。また、これらに関連する定理証明アルゴリズム、制約解消アルゴリズム、型理論、数理論理など理論的研究も行っています。今日の情報化社会において、コンピュータソフトウェア(プログラム)は生活のいたるところで使用されており、ソフトウェアの不具合は大きな社会的課題となっています。私も専門とするプログラム検証やプログラム合成は、こうした現状の危機を打開する有効手段として期待されております。私もその一端を担えるように、努力してまいりたいと思います。

参考 URL

<http://www.f.waseda.jp/terauchi/index-j.html>

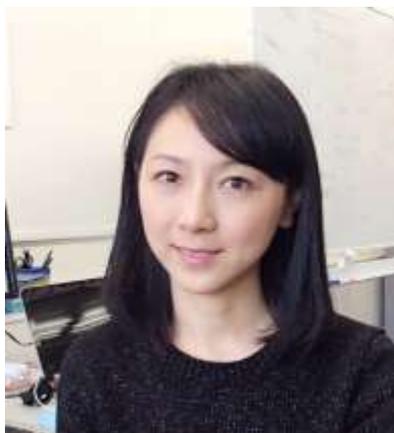
<https://scholar.google.com/citations?user=-xOKb8sAAAAJ>

略歴

コロンビア大学卒業(2000.5), カリフォルニア大学バークレー校修士号取得(2004.5), カリフォルニア大学バークレー校博士号取得(2006.12), 東北大学 大学院情報科学研究科(工学部 兼任)助教(2007.1~2011.3), 名古屋大学 大学院情報科学研究科(工学部 兼任)准教授(2011.4~2014.3), 北陸先端科学技術大学院大学 情報科学研究科 教授(2014.4~2017.8), 2017.9より現職。

新任教員挨拶

理工学術院 国際理工学センター 准教授
劉 江



2017年9月より理工学術院 国際理工学センターに着任いたしました。私は中国四川省で生まれ育ち、留学生として早稲田大学で修士、博士学位を取得しました。学位を取得後、助手、次席研究員、講師を経て自分の母校で教員になったのは大変嬉しいと思いつながら、その責任の重さも感じています。

私は在学中から無線通信の研究に従事しており、携帯電話のような私たちの身近にある電子機器から、非常に遠くにある衛星との通信など様々な場所で欠かすことのできない技術です。

私は特に光無線通信に関する研究に取り組んでおり、可視光や赤外光を利用して通信する技術で、電波による通信とは異なる特性を持ち、そのために異なる応用が考えられます。他の電子機器への影響などが小さいことから医療現場にて利用したり、また設置が簡単であるため山間部や離島など光ケーブルの敷設が難しい地域や災害発生時において便利な通信手段です。この光無線通信は、照明として多く使われている LED を通じて利用できるのではないかと期待されています。私はこの光無線通信の実用化に向けた、最適な通信方式やネットワークの構築方法などに関して研究しています。

また、この光無線通信の関連技術として、IoT(Internet of Technology)、第5世代移動体通信(5G)システム向け通信方式、衛星通信などの研究も行なっています。それらの研究によって、社会がより便利になり、安心した暮らしができることを願っています。

研究以外では、情報通信学科国際コースのクラス担任をしております。生まれた国が違い言葉や文化が違っていても、この国で楽しく勉強する早稲田大学の留学生をサポートしてあげたいと思います。そして同時に、この国の学生にとって世界が近く感じられるような機会を与えられたら良いと思います。誠心誠意研究と教育に励み、最善を尽くしたいです。

キャンパスライフ

海外留学から持ち帰った新たな自分

情報通信学科 小林研究室 博士2年 斎藤 奨



本人（右手前）とカーネギーメロン大学で研究スペースを共に過ごした学生仲間

小林研究室では、研究室内で開発されてきたパターン認識・機械学習技術の迅速かつ高品質な実用化を促す基盤として、クラウドソーシングの研究を近年開始しました。開始当初このテーマに取り組んだ唯一の学生であった私は、以来研究室を代表して最新の知見を収集し、メンバーへ共有するという中心的なポジションを任されています。こうした立場は非常に重要な役でありながらも、特に初めのうちは情報収集やコミュニティへの参加が容易ではなく、一人では思うように進まないことが多々ありました。

一方で、私は早稲田のリーディング大学院の一つである実体情報学博士プログラムに所属しており、ここでは海外の研究機関で半年間の武者修行をしてくるという必修単位のカリキュラムが組まれています。そこで私は、このチャンスを活かすべくクラウドソーシングの最先端研究を行うカーネギーメロン大学での留学を決意し、visiting studentとして研究を開始しました。研究室は非常に開放的で、毎年のようにトップ国際会議へ論文を通す優秀な学生がたくさん集まり、日々議論を行っていました。会話の内容やスピードにはいつも圧倒されっぱなしでしたが、最終的には研究室のメンバーの一人とタッグを組み、学部生も巻き込んだプロジェクトのリーダー的立場として成果を上げることができました。また、研究の合間に仲間と食事やジムに出かけるなど、プライベートの時間をともに過ごしたりしながら親密な関係も同時に築くことができたため、非常に実りの多い半年間となりました。

この留学経験は、帰国してからの私にとって大きな強みと自信に繋がりました。専門知識が格段に増え、研究分野をより俯瞰できるようになったことはもちろん、テレビ会議等を通してカーネギーメロン大学との協力関係を今もお継続している上、他大学を巻き込んだプロジェクトも次々と始まっています。ここで得たリソースを最大限に活用しながら、今後の早稲田大学におけるクラウドソーシング研究をますます活発にしていけたらと考えています。

地方本部だより

九州地方本部だより



九州地方本部では、平成 30 年 3 月 20 日（火）に平和楼天神本店（福岡市内）において、平成 29 年度の総会を開催しました。ご来賓として、EWE 本部より堀越会長をお招きし、地方本部会員からは 26 名にご出席いただきました。総会は、辛島本部長（S53 電）の挨拶で始まり、滞りなく終了しました。

総会および懇親会では、堀越会長から EWE 活動や早稲田大学の近況についてお話をいただき、参加者一同、WASEDA VISION 150 や理工学術院における近年の動きに興味深く聞き入っていました。

懇親会では、早稲田大学に関連のある品を景品としてくじ引きを行い、堀越会長がくじを引かれる度に会場は大盛り上がりとなりました。親睦が深まった後は、全員で円陣になり方を組みながら、毎年恒例の「都の西北」を斉唱しました。校歌を歌う皆様はいつにも増して笑顔で生き生きとしていました。最後は今年度初参加の新入社員 佐藤くん（H29 電）の音頭によるエールで、懇親会が盛況のうちにお開きになりました。

当日、多忙な中、ご出席いただきました堀越会長、ご協力いただきました EWE 事務局の皆様には厚くお礼申し上げます。

九州地方本部では今後も定期的に総会を開催し、より多くの会員の方と親睦を深め、「都の西北」を大斉唱したいと思っています。総会においては、年々参加会員が減っていることから、総会の今後の更なる活性化のためにも九州地方 EWE 会員の把握や総会出席の呼びかけに取り組んでおります。九州に新たにいられた方、また在住でありながら総会案内等の連絡がない方、もしくはお知り合いで EWE 会員をご存知の方は、お手数をお掛けしますが、事務局までご一報をいただければ幸いです。

東海地方本部だより



東海地方本部では、去る6月5日（火）に名古屋新栄近くの東桜会館にて2018年度の総会を開催いたしました。EWE本部より横井 亮介会長、渡邊 孝信副会長をお招きし、地方本部からは14名の会員にお集まりいただきました。

総会は、竹尾聡本部長（S49電）の開会挨拶に始まり、横井 亮介会長、渡邊 孝信副会長よりご挨拶をいただきました。また、渡邊副会長より、早稲田電気工学会 EWE の活動や WASEDA VISION 150 についてご紹介いただき、歓談へと移りました。

最後は、恒例の「紺碧の空」「都の西北」の斉唱とエールを行った後、内藤様（S51電）の閉会挨拶があり、盛況のうちに閉会となりました。

ご出席賜りました横井会長、渡邊副会長、ならびにご協力いただきました EWE 本部の皆様
に厚く御礼申し上げます。

東海地方本部では、今後も定期的に総会を開催し、企業や世代の枠を超えて交流を深めていきたいと考えております。電気を学んだ者同士、近況報告や思い出話に花を咲かせるのは楽しいものです。東海地方にお住まいの方は、是非一度総会にご参加ください。ご連絡をお待ちしております。

東海地方本部 連絡窓口
記 中部電力 小河原 竜一

電気通信学科 1947（昭 22）年卒クラス会

同期卒業生 34 名で、昨年の生存者 6 名の中、和田 新さんが一月に亡くなり、現在の生存者は 5 名となったことを最初にお知らせします。その中でも、可能なものが何とか集まろうと連絡を取り合いました。しかし、年齢の負担が重く今回は伊藤さんと赤松の二人だけが、双方の家からアクセスの比較的容易な町田市で会うことになり、5 月 4 日、町田市野津田のこじんまりとしたフランス料理店で顔を合わせました。

90 歳を過ぎ、毎年のことながら健康情報交換と戦中戦後の経験が主な話題でしたが、今回は、早稲田志望前後の学習等についても話が出ました。

この会も 1998 年（平成 10 年）から欠かさず行ってきたこともあり、できる限り続けようと申し合わせて別れました。

（赤松正也 記）



出席者 （写真左から、赤松、伊藤）